

第3学年 特別の教科 道徳 学習指導案

1 主題名 公共の場でみんなが気持ちよく過ごすために大切なことはなんだろう

【内容項目】 遵法精神、公德心<C- (10)>

2 教材名 「ベビーカー論争」 作：太田彩子

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

遵法精神、公德心とは、「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」（学習指導要領より）である。そのためには、自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもち、自分たちの社会をより安定的なものにしていこうとする姿勢が求められる。

特に学校生活においては、法的な効力をもたない「きまり」や「ルール」の中で、学校の人々や友達など様々な人と直接的に関わり合うことが求められる。その上で、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、「きまり」や「ルール」には明文化されていなくとも、公共の場での振る舞いを考えることの意義を実感できる機会をつくっていくことが重要であると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒について

中学生になると、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなっていく。

そこで、本授業では、法的なきまりや明確なルールが定められていない場合に、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが公共の場での正しい振る舞いになるのかを深く考えさせていきたい。今回は学校外の地域での出来事を取り上げることで、生徒が多様な人々と触れ合い、助け合うことにより、公德心をもつことの大切さについて深く考えられるようにしたい。

(3) 教材について

教材「ベビーカー論争」は、混雑した場所でベビーカーを利用することがマナー違反か否かについて考えながら、互いにどのような振る舞いをすればよりよく過ごせるかを考えることができる教材である。混雑した場所でベビーカーを利用することは、マナー違反か否かを話し合わせることで、多面的な考え方を語らせ、互いの感じ方、考え方の根拠を問いつつ、自己の価値観を見つめつつ磨き合わせたい。

さらに、この教材の場面では、どうすればより多くの人々が気持ちよく過ごせるかに焦点を当て、ベビーカー利用者として周りの人という立場から、多角的な話し合いを構築していく。

(4) 指導について

まず、導入では、「マナー」と「きまり」の違いについて問う。「マナー」とは、明確に定められたものではないが、社会生活を営む上では必要なものであると確認した上で、本教材について考えていく。

展開では、まず、ベビーカー利用者4人の主張を取り上げ、混雑した場所でベビーカーを利用することがマナー違反か否かについて多面的に考えさせる。中心発問では、どうすればより多くの人々が気持ちよく過ごせるかを多角的に考えさせていく。利用者の立場と周りの人々の立場から考えさせることで、どちらか一方ではなく、互いが配慮をすることの大切さに気付かせていきたい。

終末は、登下校時の自転車の乗り方について説話として話し、余韻をもって終わる。

4 本時のねらい

「ベビーカー論争」について考える活動を通して、公共の場での振る舞いについて話し合いを深め、公德心の大切さに気付くとともに、自分も社会の一員であるという自覚をもって行動しようとする心を育てる。

5 「考え、議論する」道徳を実現させるための手だて

混雑した場所でベビーカーを利用することが「マナー違反」なのかどうか自分なりの考えがもてるように、心の数直線を活用して迷う気持ちを引き出ししたり、問い返して思考を揺さぶったりする。

6 準備・資料

教師・・・ワークシート、利用者4人の主張をまとめた表、本文プリント

生徒・・・タブレット端末

7 指導過程

時	段階	学習活動	具体的な手だて
---	----	------	---------

	導入	1 「マナー」と「きまり」の違いについて考える。 ・「マナー」は相手に対する思いやり、配慮。罰則がない。 ・「きまり」は守らなければならないこと。守らないと罰則がある。	1 より違いが分かるように、「二通の手紙」で考えた「規則」について話をする。
5	展開	2 ベビーカー利用者4人の主張について考える。	2 論点を明確にするために、4人の主張をまとめた表を提示する。
10		3 「ベビーカー論争」について話し合う。 ・必要だから使うのであって、マナー違反ではない。 ・周りへの配慮は必要だと思う。 ・ルールやきまりがあれば分かりやすい。	3 迷う気持ちを引き出すために、心の数直線を活用する。 3 多面的な考えを可視化するために、「マナー違反」「マナー違反ではない」に分類しながら板書する。
25		4 どのような気持ちでベビーカーを利用するとよいかについて話し合う。 【利用者】 ・通行の妨げにならないように端に寄る。 ・傲慢な態度にならないよう、周りをよく見て、安全に配慮する。 【周りの人】 ・相手にも事情があると理解して、自分がよける。 ・危険を感じたり、困っていたりしたら声をかける。	4 多角的な立場で考えられるようにするために、利用者と周りの人という2つの視点で考えるように促す。 4 行動面についても考えられるように、心情面だけの意見には、「具体的にはどうする?」と投げかける。 4 心情面についても考えられるように、行動面だけの意見には、「なぜそうするのか」「どのような意味があるのか」と投げかける。
40	終末	5 振り返りを書き、教師の説話を聞く。	5 授業で考えたことを振り返られるよう、公共の場での振る舞いについて考えたことを書くよう促す。

8 板書計画

11 / 14	ベビーカー論争	<u>公共の場でみんなが気持ちよく過ごすために大切なことはなんだろう</u>
○マナー…思いやり、配慮、罰則がない	小さい子 必要	ナマ
○きまり…守らねばならないこと、罰則がある	利用者の自由	声をかける
ベビーカー利用者 4人の主張	違反	トマ
	い	危険
	な	邪魔
	は	ルール きまり
	で	周りへの配慮
		迷惑
		通行の妨げ
		端に寄る